

## 「どさんこ日本酒再発見！ ～地酒によるビジネス支援事業～」

Y・T

札幌市図書・情報館

### 1. はじめに

第 22 回ビジネス・ライブラリアン講習会を受講し、事業の企画を考えるにあたり、頭に浮かんだのが札幌で唯一の酒蔵であった。日本酒の歴史は古く、『國酒の地域経済学』<sup>1</sup>には、2009 年 6 月に沖縄で開催された通常総会において、日本酒と焼酎が「國酒」として機関決定した。

日本酒造りは歴史と文化を後世に伝える伝統産業であると同時に、札幌の貴重な地場産業でもある。この地に誕生した北海道最古の酒蔵を中心に、北海道で生産されている日本酒を取り上げることで、日本酒の文化や歴史を幅広い人たちに紹介し、それを様々なビジネスのきっかけとして札幌の飲食店の集客数の向上、観光人口の増加に結び付けたい。

### 2. 背景と現状

札幌市は北海道・石狩平野の南西部に位置する、人口 1,969,058 人<sup>2</sup>(令和 5 年 3 月 1 日現在)の政令指定都市である。産業構造<sup>3</sup>としては全国に比べて 2 次産業の割合が低く、卸売・小売業や宿泊・飲食サービス業などの割合が高くなっている。国内外からの観光客も多く、全国有数の観光都市といえるだろう。2020 年からの新型コロナウイルスの影響で観光や飲食店に深刻なダメージを受けたが、2023 年 5 月に感染症法上の 2 類から 5 類に変わったことにより、徐々に人出が戻ってくることが予想される。

### 3. 課題

日本酒は「國酒」に位置付けられ、日本独特の文化を持つ酒としての長い歴史があるが、その消費量は若者のアルコール離れや健康志向の高まり、愛飲者の高齢化など様々な理由により年々減少の一途をたどっている。(国税庁のホームページによると、北海道の日本酒の消費量は平成 29 年度(2017)の 21.438KL から令和 3 年度(2021)には 16.566KL となっている。)<sup>4</sup>

その一方で国の登録無形文化財である「伝統的酒造り」を、令和 5 年(2023)3 月に文化庁が 2 年連続でユネスコの無形文化遺産に提案することを決定<sup>5</sup>したことや、日本食への関心の高まり、為替の円安基調などから外国への輸出は上昇している。行政での取り組みとして、国税庁による令和 4 年(2022)に実施された「日本産酒類の販路拡大・消費喚起に向けたイベント推進事業 (Enjoy SAKE! プロジェクト)」<sup>6</sup>などがあり、近年日本酒への関心が高まっている。

これを好機ととらえ、コロナ後に需要が高まるであろう飲食業や観光業の支援となるよう働きかけることが必要だと思われる。それが札幌の文化・歴史を守り、なおかつ観光業や酒類関連事業の促進につながると考えた。

#### 4. 札幌市・図書情報館について

札幌市図書・情報館は平成30年(2018)10月、劇場やアートセンターを併設した複合施設の中に課題解決型図書館としてオープンした。商業施設やオフィスが立ち並ぶ札幌の中心部に位置し、市民への様々な情報発信はもちろん訪れた観光客へ札幌や北海道の魅力を伝える場所でもある。1階には郷土資料や北海道関係の雑誌やカルチャー誌があり、開放的で入りやすい雰囲気的空間を演出している。2階は「WORK(仕事に役立つ)」「LIFE(暮らしをたすける)」「ART(芸術に触れる)」の3つのエリアに分かれ、従来の日本十進分類法ではなく、各棚の担当司書がテーマごとに資料を配置している事も大きな特徴である。

いつでも最新の情報がすぐ手に入るよう、貸出を行っていないことが迅速な情報収集を必要とするビジネス支援の大きな武器となる。また同フロア内にある5~12名で使えるミーティングルームを完備しており、会議の途中ですぐ調査・相談が出来るのも図書館の強みといえる。

今回の事業案では「食」をテーマとした棚を活用し、専門的な資料を多く取り揃えていることを関係者に周知することで、ビジネスに生かしてもらおうことを目指した。

#### 5. 事業内容

##### 5-1 セミナーと試飲会

札幌の中心部である中央区を循環する路面電車を貸し切り、その中で日本酒をテーマにしたセミナーを行う。貸切電車<sup>7</sup>を使用することで、路面電車を個人・事業者がイベントなどに利用できることをPRする。路面電車の経路には連携展示を行う札幌市中央図書館も含まれており、貸出できる本を展示している場として紹介する。

- ① 札幌唯一の日本酒蔵元の杜氏を講師に招き、日本酒の歴史や文化・楽しみ方等についての知識を深める講演会と試飲会を行う。このセミナーでは日本酒に興味を持つ人を対象に行う。
- ② 北海道産酒をメインに扱うバーの店主を講師に招き、北海道産酒の魅力と飲食店経営についてのセミナーを行う。主に飲食業に興味がある人達を対象とする。
- ③ 「酒粕」を使用したコスメを販売している道内企業を講師に招き、セミナーを行う。酒粕は日本酒を製造する際に発生する副産物であり、発酵食品として食品や化粧品などの分野で注目されていることから、新規事業のヒントになる講演をしていただく

く。また、酒粕の二次利用はエシカル経営に繋がる取り組みであることから、地球環境や社会に配慮した経営を目指す事業者も対象にしたセミナーとする。このセミナーに合わせて環境経営についての図書資料を会場で展示する。

#### ④ 5-2 資料展示

・図書・情報館での展示

##### ① 1階展示スペース

日本酒や料理、北海道酒に関連する本や雑誌の展示。図書・情報館では市内に飲食店が多数あることから専門書や専門誌を多数所蔵している。図書資料と共に、国税庁に協力を依頼し「北海道酒蔵マップ」を一緒に展示する。合わせて、市内の日本酒を製造する企業の資料館に酒造りに関する歴史的な資料の貸出やパンフレットの提供を依頼する。

〈展示資料例〉

『全国の日本酒大図鑑 東日本編』友田 晶子/監修 マイナビ出版社 2016

『最先端の日本酒ペアリング』千葉 麻理絵/著 旭屋出版 2019

##### ② 1階展示スペース

起業や経営などの本の展示。ここでは図書資料と共に、図書館の連携機関である起業・経営・法律などの専門機関のパンフレットやデータベースの資料も一緒に配布する。定期的に開催している無料相談窓口と、ビジネスに役立つデータベースを知ってもらうことが目的である。

〈展示資料例〉

『あたらしい飲食店経営 35の繁盛法則』三ツ井 創太郎/著 同文館出版 2022

『これからの飲食店 DXの教科書』長屋 大輔/著 同文館出版 2022

『飲食店経営』アール・アイ・シー

##### ③ 2階展示スペース

日本酒のラベルとデザイン関連本の展示。北海道の酒蔵に日本酒のラベルの提供協力を依頼し、デザイン関連の図書資料と共に展示する。デザインに興味がある人達を対象として、パッケージやちらし、ホームページなど商品を宣伝する上で必要な情報を提供できる資料を展示する。

〈展示資料例〉

『親切な商品案内のデザイン』パイインターナショナル/編著 パイインターナショナル 2018

『ロゴデザインの教科書』植田 阿希/著 SBクリエイティブ 2020

これらの展示とブックリストを作成・配布することによって、各テーマの棚に誘導

することも目的のひとつである。

・各図書館での展示。

札幌市内にはセンター館である札幌市中央図書館を中心に各区ごとに地区図書館がある(合計 10 館)。当館の資料は貸出を行わないため、貸出用資料のある館に展示協力を依頼する。北海道の酒蔵や日本酒にまつわる本、日本酒をテーマにした小説などを展示して興味を引き、そこにセミナーのチラシを置くことで宣伝効果を狙う。

〈展示資料例〉

『居酒屋ぼったくりシリーズ』秋川 滝美/著 アルファポリス

『食堂のおばちゃんシリーズ』山口 恵似子/著 角川春樹事務所

### 5-3 飲食店との共同メニュー開発

図書・情報館近隣にある商店街「狸小路商店街」、飲食店が立ち並ぶ繁華街「すすきの」地区にある飲食店と司書、北海道よろず支援拠点<sup>8</sup>の食を専門とするメンバーが、日本酒に合う料理や日本酒を使用したメニュー、商品などの開発を行う。当館の資料を用い、ミーティングルームでの会議やオンライン会議ができる体制を整える。この企画により、新たに図書館と地元企業との密接な関係性を築くことが出来ると考えた。

## 6. 目的と効果

日本の伝統産業である日本酒を、展示やセミナーを通して理解を深めてもらう事で地域の活性化を促し、酒米生産者、飲食店、販売店、製造業、酒器関連の業者など様々な分野のビジネスの発展を目指す。また、今回の事業を通し、図書館が生産者、経営の専門家、事業者の交流できる場を作ることで、新たな事業の可能性を引き出すきっかけとする。

## 7. おわりに

市内の地区図書館からビジネス支援を中心とした札幌市図書・情報館に異動になり、ビジネスについて学びながら仕事と向き合う毎日の中、1年目にして第22回ビジネス・ライブラリアン講習会に参加できたことを幸運に思う。研修が始まってからの数か月は、自分の意識が大きく変化していくのをはっきりと感じる時間でもあった。働くことは未来をすることであり、自分たち司書がその未来を支えていくのだという意識が芽生えたのだと思う。

常世田講師の講義の中で、与えられた課題を指示された通りにやっていたらよかった時代から、自分で判断する時代に社会が移行しているとお話があったが、本来ならもっと早くに自分自身と図書館は変わらなくてはいけなかったと考えさせられた。

その後悔を忘れず、この流れを迅速に進めていくことを使命としたい。

最後に、得難い経験をさせていただいた講習会関係者の皆様と、講習期間中ずっとサポートをしてくれた職場の皆様に感謝申し上げます。

#### 【注】

1. 『國酒の地域経済学』佐藤 淳/著 文眞堂 2021
2. 「札幌市 統計情報」 <https://www.city.sapporo.jp/index.html>
3. 「札幌市 データで見ると！さっぽろ経済の動き」  
<https://www.city.sapporo.jp/keizai/top/jyouhou/data/index.html>
4. 「札幌国税局 お酒に関する情報 令和3年度(2021)の酒類の消費数量」  
<https://www.nta.go.jp/about/organization/sapporo/sake/index.htm>
5. 「日経新聞 酒造りのユネスコ申請決定 無形文化遺産、24年審査」  
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUE10APQ0Q2A310C2000000/>
6. 「国税庁 日本産酒類の販路拡大・消費喚起に向けたイベント推進事業」  
(Enjoy SAKE! プロジェクト)  
[https://www.nta.go.jp/taxes/sake/boshujoho/pdf/0022002-058\\_02.pdf](https://www.nta.go.jp/taxes/sake/boshujoho/pdf/0022002-058_02.pdf)
7. 「札幌市交通事業振興公社」<https://www.stsp.or.jp/business/streetcar/charter/>
8. 「北海道よろず支援拠点」<https://yorozu-hokkaido.go.jp/about/>

#### 〈参考文献〉

1. 『日本酒の魅力が満杯！』白石 常介/著 ごま書房新社 2022
2. 『バ酒ポート北海道 2019-2020』北海道広域道産酒協議会 2019
3. 『さっぽろ狸小路グラフィティ』和田 由美/著 亜璃西社 2013
4. 『札幌と水 さっぽろ文庫24』札幌市教育委員会文化資料室/編 札幌市 1983
5. 『すすきの さっぽろ文庫87』札幌市教育委員会文化資料室/編 札幌市 1998
6. 『教養として知りたい日本酒』八木・ボン・秀峰/著 PHP 研究所 2020
7. 『酒類食品統計年報 20-21年版』日経経済通信社調査出版部/編集 日刊経済通信社 2020
8. 『酒類食品統計月報』日本経済通信社
9. 『酒販ニュース』醸造産業新聞社

#### 〈参考 URL〉

1. 「国税庁 酒のしおり」  
<https://www.nta.go.jp/taxes/sake/shiori-gaikyo/shiori/01.htm>
2. 「経済産業省 経済解説室ひと言解説集」

[https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/hitokoto\\_kako/20210906hitokoto.html](https://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikaisetsu/hitokoto_kako/20210906hitokoto.html)

3. 「SAKETIMES 図書館が日本酒をプロデュース！？酒造りの文化を紡ぐ、兵庫県伊丹市立図書館「ことば蔵」の試み」

[https://jp.sake-times.com/knowledge/culture/sake\\_g\\_itami\\_kotobagura](https://jp.sake-times.com/knowledge/culture/sake_g_itami_kotobagura)

4. 「独立行政法人 酒類総合研究所 日本酒ラベルコレクション」

<https://www.nrib.go.jp/sake/collection/sapporo/hokkaido.html>